



ランタンキュラスは、近年需要が拡大している冬季草花で、低温に強く、本県では、カーネーションや他の草花生産者の経営に組み込む品目として注目されています。ランタンキュラスは、国内外で育種や栽培が行われており、本県においては他産地との差別化や花きの輸出を強化するため、ランタンキュラスとアネモネとの属間交配を行い、オリジナル性の高い新品種開発を行いました。

作出した有望系統「長崎149」は、採花本数が多く、八重咲き、花色は薄紫ピンクで中心は緑色で開花が進んでも露芯しない、既存品種に少

ランタンキュラスの新品種 「長崎149」「長崎75」 採花数多く八重咲き

2020年度作「長崎75」「長崎149」の月別切り花品質と累積採花本数

系統・品種名	採花開始日	月	出荷可能切り花の品質		累積採花本数/株(本)
			切り花長(cm)	花径(cm)	
「長崎75」	11月28日	11月	40.9	5.0	0.6
		12月	48.2	5.6	7.9
		1月	58.6	6.3	11.5
		2月	57.3	8.5	14.8
		3月	54.0	6.2	28.3
「長崎149」	1月18日	12月	-	-	-
		1月	56.5	6.0	5.1
		2月	62.9	6.6	16.3
		3月	58.6	6.0	24.8
ドリーミーイエロー	11月24日	11月	36.0	8.5	0.4
		12月	47.5	6.1	3.2
		1月	48.6	6.1	6.6
		2月	50.3	6.6	12.1
		3月	48.4	5.9	18.3

既存品種「ドリーミーイエロー」と比較した

ない花形花色が特徴です。「長崎75」は花形がややドーム状の八重咲き、採花本数が多く、花色はランタンキュラスに少ない濃い赤紫色。輸出を想定し10度の冷蔵庫で6日間

黒下に置いた後の日持ちは12日と長くなります。(長崎県農林技術開発センター 農産園芸研究部門花き・生物工学研究室室長 樋山妙子)